

唐津市立鬼塚中学校 学校だより

学校教育目標

感動 感謝 思いやり

～支え合う生徒 支え合う先生 支え合う学校づくり～

令和2年11月13日発行 NO. 11

文責 校長 中村 数寛

映像視聴による第74回文化発表会を開催しました！

テーマ：「^{ひゃっかりょうらん}百花繚乱 ^{むげん}～無限の可能性^{かのうせい}～」

11月1日（日）、映像視聴による文化発表会を開催しました。本来ならば、生徒たちが活動する姿や展示作品をじっくり見ていただき子どもたちの成長ぶりを評価して欲しかったのですが、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の中、生徒たちの活動を最優先に考え、保護者の皆様も含め外部の方の参観をご遠慮いただき、無観客で実施しました。密集状態を避けるため、体育館では、3年生が大型スクリーンで映像を視聴し、1・2年生は各教室の電子黒板で視聴するという形式での実施でしたが、生徒の皆さんの協力で、コロナ禍の中、思い出に深く刻まれる文化発表会となりました。今年のテーマは、3年1組より提案された「百花繚乱 ～無限の可能性～」。このテーマには、「文化発表会を創り上げていく中で、色々な花（個性）が咲き乱れ、素晴らしい展示作品やステージ発表で、心に残る思い出にしよう」という意味が込められています。濱部聖那実行委員長を中心に生徒会本部役員、文化委員で組織された実行委員会の企画・運営のもと、制限をされた状況の中で本当に素晴らしい感動的な文化発表会を創り上げてくれました。ステージの部（劇）では、限られた時間の中での事前収録だったので、調整をしながら大変なこともあったと思いますが、各学年のカラーを生かした作品（劇）に仕上がっていました。合唱コンクールは、それぞれの学年の持ち味が発揮された歌声、ハーモニーで大変感動しました。展示の部では、各学年での制作、教科や部活動、総合学習等の学習活動で積み上げた作品が展示されました。それぞれに創意工夫と努力の跡が輝いていました。コロナ禍の中、素晴らしい文化発表会を創り上げてくれた生徒の皆さんに心から賞賛の拍手を贈りたいと思います。以下、一部ではありますが内容を紹介します。



「文化発表会を終えて」 実行委員長 3年1組 濱部 聖那さん 今年は、例年とは違う文化発表会になり残念でしたが、劇・制作・合唱の全てで、みんなが楽しむことができたと思います。実行委員長という不安もありましたが、副実行委員長、文化委員、先生方、全校生徒みんなの力があって頑張ることができました。今年限りの特別な文化発表会は最高でした。みなさん、ありがとうございました。



「文化発表会を終えて」 副実行委員長 3年1組 矢根 愛花さん 今年の文化発表会は、コロナで色々制限される中で行われましたが、みんなの頑張りと生徒会の人や実行委員長さんたちのおかげで、無事成功できたと思います。合唱や劇を生で見ることができないのはすごく残念でしたが、文化発表会を実施することができたので、私はそれだけでも嬉しかったです。一番思い出に残る文化発表会になりました。

何かに夢中で取り組み
学年で力を合わせ作った
出し物は素晴らしいです

【1年生劇・制作】

1年生の朗読劇は、人権啓発絵本「わたしのせいじゃない～せきにんについて～」を朗読しました。自分たちの日常生活で起こりそうなある出来事を通して、集団のあり方、個人の責任について考えを深める機会となりました。1年生らしい元気のあるはつらつとした朗読劇でした。学年制作は、朗読劇の題材をもとにちぎり絵で制作しました。冷たい表情のみんなが、あたたかい言葉をかけ合うことで優しい気持ちにあふれ変わっていく様子を表現しました。

わたしのせいじゃない ～せきにんについて～



【朗読劇 映像の表題】

【ちぎり絵による展示作品：どうしたの？・大丈夫？・一緒にしようよ！】

【2年生劇・制作】

2年生の劇「夕輝～ぼくの生きてきた証～」は、友達関係、いろいろな悩みを抱えながら一生懸命生きていた中学2年生。ある日突然、当たり前の日常が奪われてしまいます。少年がいなくなったことで変化した周囲の関係。家族や友人、さまざまな立場に思いを寄せながら、迫真の演技で「命」について考える問いかけをしてもらいました。2年生の逞しい成長ぶりを感じさせる劇でした。学年制作は、コロナ禍で中止となった唐津くんちに思いを馳せ、14台の曳山をモザイクアートで制作しました。細かい作業で大変でしたが素晴らしい作品に仕上がっています。



【2年生劇：夕輝～ぼくの生きてきた証～劇の雰囲気をもたせるため、3枚の背景も自分たちで制作をしました】



【2番曳山 中町】



【5番曳山 魚屋町】



【10番曳山 平野町】



【13番曳山 水主町】

【3年生劇・制作】



【曳山展示場】

3年生の劇「朗らかに ～今、知覧に生きる」は、鹿児島県の知覧（第二次世界大戦中の特攻隊の基地がある）が舞台。戦後75年、昭和から平成の時を経て、令和の時代に突入した今、私たちが考えなければならないこと、私たちにできることに視点を当て、「戦争」について、「特攻」について、「平和」について学びを深めるよい機会をいただきました。60分の大作で、作品のクオリティーの高さに大変驚きました。さすが3年生という素晴らしい劇でした。学年制作は、修学旅行の代替として実施された唐津市内班別研修で訪れた唐津の名所（唐津城・時の太鼓・曳山展示場・唐津神社・旧唐津銀行・近代図書館・アルピノ）を7つのグループごとに工夫を凝らして制作しました。3年生が再発見した唐津の魅力が伝わってくる作品に仕上がっています。



【3年生劇：「朗らかに ～今、知覧に生きる」より 素晴らしい演技力に感心しました】



【曳山展示場・旧唐津銀行・唐津城】



【近代図書館】



【唐津神社】



【時の太鼓】